

都市再生整備計画 事後評価シート

愛野地区

令和4年3月

長崎県雲仙市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名	雲仙市		地区名	愛野地区			面積	4.5ha		
交付期間	平成28年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	1,216百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道愛野小無田下線、市道愛野愛野線、市道愛野公民館横線)、高次都市施設(愛の夢未来センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(生涯学習施設整備事業、バスシュエルター整備事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	—			—			—				
	新たに追加した事業	基幹事業	—			—			—				
		提案事業	—			—			—				
	交付期間の変更	当初	平成28年度～平成32年度(令和2年度)		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—					
変更		—											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	地域交流センターの利用者数	人	63,876	H26	78,000	R2	—	34,770	×	あり	愛の夢未来センターの整備により、図書館をはじめ住民が利用可能な施設の種類(ホール・研修室等)が拡充されるとともに、駐車場が確保されたことで利便性向上が図られ、施設利用者の増加が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、移動制限や自粛が要因となり目標値には及ばなかった。(R1からR2にかけて利用者は増加傾向を示している。)	—
											なし ●		
	指標2	市民満足度調査(バス乗り継ぎ)	%	62	H26	49	R2	—	58	×	あり	バス路線間の乗り継ぎ利便性向上を図るため、乗り継ぎ拠点となるバス停の新設やバス停車スペースの整備を実施したものの、交通事業者との調整が難航したことで事後評価実施時期までにルート変更が実現できなかったことから、利便性を享受できず、目標値には及ばなかった。	—
なし ●													
指標3	市民満足度調査(交通体系網の整備)	%	42	H26	50	R2	—	58	○	あり	バスルートが未変更のため、新たに整備したバス停車レーン・バス停の利用には至っていないが、市道愛野小無田下線、市道愛野愛野線、市道愛野公民館横線における歩道整備や道路改良が評価されたと推測され、満足度の向上、目標値の達成に寄与した。	—	
										なし			

	指 標		単 位	従前値		目 標 値		数 値		目 標 達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	愛野地区住民満足度調査 (愛の夢未来センター)	%	—	—				94			新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設利用者は減少していたものの、愛の夢未来センターの整備による施設・地区の利便性は向上しており、施設の複合化やバリアフリー化・駐車場の拡張による利用環境の改善が評価されている。	—	
	その他の 数値指標2	愛野地区住民満足度調査 (公共交通)	%	—	—				93			新たなバスルートの運行は未実施であるものの、実施後を想定したバス利用環境は評価されていると推測され、バス停・バス停車スペースの整備(道路改良)による利便性の向上が図られている。	—	
	その他の 数値指標3	愛野地区住民満足度調査 (道路整備)	%	—	—				89			新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動制限・自粛により、道路改良・歩道拡幅等の整備効果を実感する機会が減少していたが、道路整備による安全性・住環境の向上が評価されていると考えられ、バス停車スペースやバス停の整備による自動車の走行環境、歩行者の歩行・待機スペースが拡充されたことによる安全性の向上についても評価されたと推測される。また、高齢者(交通弱者)からの評価も高くなっている。	—	
4)定性的な効果 発現状況	—													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	住民参加 プロセス		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	持続的なまちづくり 体制の構築		なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			

様式2-2 地区の概要

愛野地区(長崎県雲仙市) 都市再生整備計画の成果概要					
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 愛野地域における交流、賑わい創出による地域活性化 ①交流と賑わいを創出するまちづくりの推進 ②交通結節点である利点を活かしたまちづくりの推進 ③人にやさしい安心・安全な道路整備	地域交流センターの利用者数	単位: 人	63,876 H26	78,000 R2	34,770 R3
	市民満足度調査	単位: %	62 H26	49 R2	58 R3
	市民満足度調査	単位: %	42 H26	50 R2	58 R3



市道愛野小無田下線



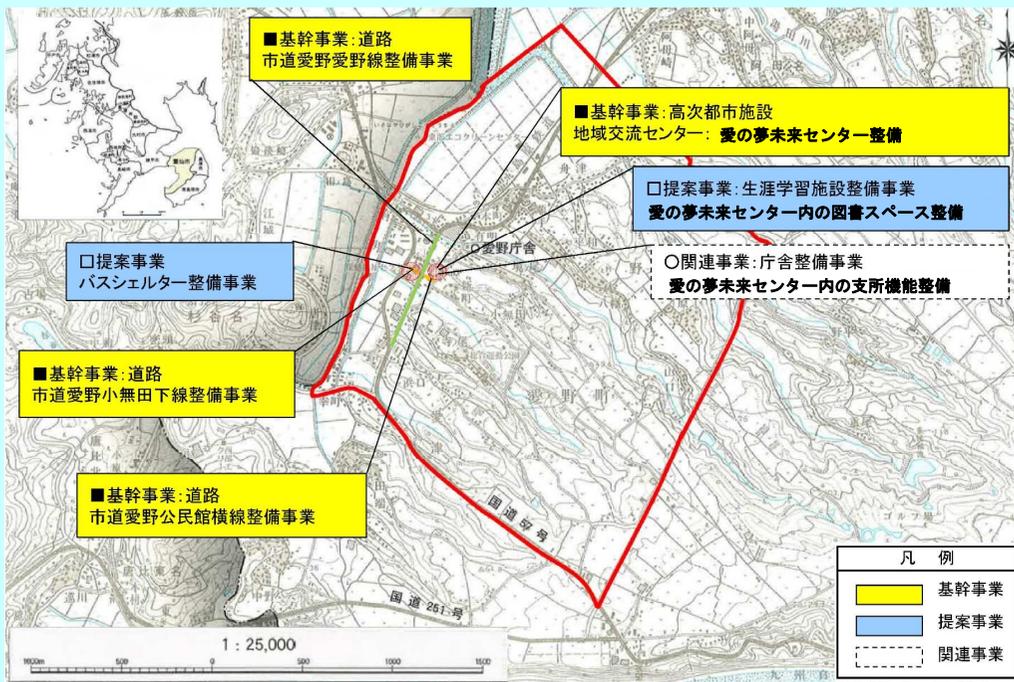
市道愛野愛野線



市道愛野公民館横線



バスシェルター



愛の夢未来センター



図書スペース

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●当初の課題①: 愛野総合支所は住宅地の中にあり、駐車場も狭く8台程度しか駐車できないため利便性が悪い。 ⇒駐車場が拡充されたことにより、来訪者の利便性が高められた。 ●当初の課題②: 愛野町公民館は地理的条件に恵まれていることもあり、市内はもとより市外からの利用者も多く、近年、需要に対応できない状況になっている。また、会議室やホールが2階にあり、エレベーターが未設置なため、バリアフリー対策が必要である。 ⇒旧公民館には設置されていなかったエレベーターの整備等、バリアフリーに配慮することで、誰もが利用しやすい施設の整備が行われた。 ●当初の課題③: 交通の要衝であるにもかかわらず、バス停が複数箇所に分散しており、利用者の乗り継ぎが複雑で、非常に不便である。 ⇒島鉄バス・県営バスの乗り継ぎ機能の強化を図るため、乗り継ぎ拠点となる新たなバス停を整備した一方で、交通事業者の要望もあり、バスルートの変更、バス停の集約化には至らなかった。そのため、これらの実現に向け継続して検討する必要がある。 ●当初の課題④: 宅地開発や事業所の進出が急速に進んでおり、地区内の定住人口は増加しているが、生活道路や排水路などの住環境の整備が遅れている。 ⇒バス停車帯の整備や道路拡幅等、道路改良により住環境の向上が図られている。 ●当初の課題⑤: 歩道の未整備区間があり、歩行者や自転車利用者の安全を守るための道路整備が必要である。 ⇒新たな歩道の整備及び道路改良により、道路環境の改善と歩行者等の安全性が高められた。
----------	---

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・主な基盤整備(ハード)は完了しているため、今後は施設の活用・利用を促すための周知、情報発信(ソフト)を進める必要がある。 ・賑わい持続、創出の取組として、住民主体のイベント等の支援を行う。 ・本計画で整備した区間他、必要に応じて継続的な道路改良を進め、更なる道路環境の向上を図るとともに、経年劣化が進む道路についても改修を行い住環境の維持を行う。 ・交通事業者と調整を図り、引き続きバス停の設置位置や集約化について検討を行い、交通の要衝・結節点としての利便性の向上を目指す。
---------------------	---

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他()		●	—	—	—

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道愛野小無田下線	48	L=89m	48	L=102m	第2回: 規模の変更	第2回: 影響なし	●	
道路	市道愛野愛野線	50	L=180m	12	L=52m	第2回: 規模、事業費の変更	第2回: 影響なし	●	
道路	市道愛野公民館横線	52	L=82m	34	L=35m	第2回: 規模、事業費の変更	第2回: 影響なし	●	
高次都市施設	愛の夢未来センター	883	A=2,184㎡	795	A=2,728㎡	第1回: 規模、事業費の変更 第2回: 名称、事業費の変更	第1回: 影響なし 第2回: 影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費 (百万円)	事業内容	事業費 (百万円)	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	生涯学習施設整備事業	232	A=576㎡	320	A=1,102㎡	第1回：規模、事業費の変更 第2回：事業費の変更	第1回：影響なし 第2回：影響なし	●	
	バスシュエルター整備事業	10	A=54㎡	7	A=21㎡	第2回：規模、事業費の変更	第2回：影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			事業費 (百万円)	最終変更 計画(百万円)	当初計画	最終変更計画			
庁舎整備事業		愛の夢未来センター内(支所機能)	221	319	平成28年～令和元年	平成28年～令和元年	愛の夢未来センター整備にあわせ、支所機能を移設し運用している。		
都市再生整備計画事業効果分析業務		区域全域	3	3	令和2年～令和2年	令和2年～令和2年	-		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	確定	見込み	事後評価	○	×	あり	なし
指標1	地域交流センターの利用者数	人	愛の夢未来センターの施設利用者数(R2時点の交流スペースと図書スペースの利用者数の合計)を計測する。	-	-	63,876	H26	78,000	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 ●	見込み	34,770	事後評価	×	
指標2	市民満足度調査	%	愛野地区を対象にバス乗り継ぎに関する市民満足度調査を行い、公共交通の利便性について、不便だと感じている人の割合を計測する。	-	-	62	H26	49	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 ●	見込み	58	事後評価	×	
指標3	市民満足度調査	%	愛野地区を対象に交通体系網の整備に関する市民満足度調査を行い、生活道路の整備(道路改良・歩道の整備)について、満足度を計測する。	-	-	42	H26	50	R2	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 ●	見込み	58	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による人の移動制限等により、利用者数が伸び悩んだことで目標は達成できなかったものの、住民が利用できる施設の種類(ホール、研修室等)、駐車場の拡充や図書館を併設したことで、利便性は向上が図られている。	新型コロナウイルス感染症の流行による人の移動の制限や自粛が数値に影響を与えている可能性が推察される。
指標2	バス停およびバス停車スペースの整備は完了したものの、交通事業者との調整が難航しており、バスルート変更によるバス停の集約が実現できていないため、整備したバス停が利用されていない。	整備したバス停・検討している新たなバスルートの利用が実現できていないため、整備後の評価に至っていない。
指標3	バスルートの変更には至っておらず、新たなバス停車スペースやバス停は利用されていないものの、市道愛野小無田下線、市道愛野愛野線、市道愛野公民館横線における歩道整備や道路改良が評価されたと推測される。	目標値を達成しているものの、バスルートの変更が未実施のため、新たに整備したバス停車スペースやバス停による自動車・歩行者通行の安全性向上を汲み取れていない可能性がある。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	愛野地区住民満足度調査(愛の夢未来センター)	%	愛野地区住民満足度調査において、愛の夢未来センターの整備による施設及び周辺地区の利便性を、整備前と比較して「とても便利になった」「少し便利になった」と回答した人の割合を計測する。	—	—	—	—	モニタリング	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大による施設利用者の減少が影響にあるものの、整備前後の施設・地区の利便性の変化を把握することで、複合施設として整備した愛の夢未来センターの効果を評価する。	指標1を補完して、「交流と賑わいを創出するまちづくりの推進」について説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	愛野地区住民満足度調査(公共交通)	%	愛野地区住民満足度調査において、バスルートが変更された際を想定し、バス停・バス停車スペースが整備されたことによる利便性を、整備前と比較し、「とても良くなった」「すこし良くなった」と回答した人の割合を計測する。	—	—	—	—	モニタリング	—	—	バスルートが未変更のため、変更後、整備したバス停やバス停車スペースが活用された際を想定し、整備前後の公共交通の利便性の変化を把握することで、整備効果を評価する。	指標2を補完して、「交通結節点である利点を活かしたまちづくりの推進」について説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標3	愛野地区住民満足度調査(道路整備)	%	愛野地区住民満足度調査において、愛の夢未来センター周辺の道路の道路改良・歩道整備等による安全性・住環境を、整備前と比較し、「とても良くなった」「すこし良くなった」と回答した人の割合を計測する。	—	—	—	—	モニタリング	—	—	市道愛野小無田下線、市道愛野愛野線、市道愛野公民館横線の歩道整備や道路改良が評価され、目標値を達成しているものの、新たに整備したバス停車スペースやバス停による自動車・歩行者通行の安全性向上を汲み取れていない可能性がある。これを補完する指標として設定し、整備効果を評価する。	当初想定していたバス停車スペース・バス停の整備による自動車・歩行者通行の安全性向上を含めた評価とするため、指標3を補完する指標として設定し、「人にやさしい安心・安全な道路整備」を説明する。
								事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

なし

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	担当職員 (監理課、地域づくり推進課、財産管理課)	令和4年1月26日(水)	財産管理課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3	
指標名		地域交流センターの利用者数		市民満足度調査		市民満足度調査	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	[道路]市道愛野小無田下線	—	—	—	—	◎	バスルートが未変更のため、新たに整備したバス停車スペース・バス停の利用には至っていないが、市道愛野小無田下線、市道愛野愛野線、市道愛野公民館横線における歩道整備や道路改良が評価されたと推測され、満足度の向上、目標値の達成に寄与した。
	[道路]市道愛野愛野線	—		—			
	[道路]市道愛野公民館横線	—		—			
	[高次都市施設]愛の夢未来センター	—		—			
提案事業	[地域創造支援事業]生涯学習施設整備事業	—	—	—	—	—	
	[地域創造支援事業]バスシュエルター整備事業	—		—		○	
関連事業	庁舎整備事業	—	—	—	—	—	
	都市再生整備計画事業効果分析業務	—		—		—	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	—	—	整備した道路の適正な維持管理を図るとともに、バスルートの変更を進め、バス停車スペース・バス停の整備による自動車・歩行者通行における安全性の確保と公共交通の利便性を高めることで、更に満足度の高い交通体系網の整備を推進する。
-------	---	---	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3		
指標名		地域交流センターの利用者数			市民満足度調査			市民満足度調査		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[道路]市道愛野小無田下線	—	愛の夢未来センターの整備により、図書館をはじめ住民が利用可能な施設の種類が拡充されるとともに、駐車場が確保されたことで利便性向上が進んだことで施設利用者の増加が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、移動制限や自粛が要因となり目標値には及ばなかった。(R1からR2にかけて利用者は増加傾向を示している。)	Ⅲ	△	バス路線間の乗り継ぎ利便性向上を図るため、乗り継ぎ拠点となるバス停の新設やバス停車スペースの整備を実施したものの、交通事業者との調整が難航したことで事後評価実施時期までにルート変更が実現できなかったことから、利便性を享受できず、目標値には及ばなかった。	Ⅱ	—	—	—
	[道路]市道愛野愛野線	—			—					
	[道路]市道愛野公民館横線	—			—					
	[高次都市施設]愛の夢未来センター	△			—					
提案事業	[地域創造支援事業]生涯学習施設整備事業	△		—	—	—	—	—	—	—
	[地域創造支援事業]バスシュエルター整備事業	—		△	—	—	—	—	—	—
関連事業	庁舎整備事業	△		—	—	—	—	—	—	—
	都市再生整備計画事業効果分析業務	—		—	—	—	—	—	—	—

※目標未達成への影響度

××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。

—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	施設及び施設利用に関する情報発信や愛の夢未来センターで開催されるイベント等の周知活動等、ソフト面での取組強化を実施することで施設利用者の増加を目指す。	バス停やバス停車スペース等の利便性向上に資する整備は完了しているため、新たなバスルートを実現し、市民が利用できる環境を構築する。	—
------------------	---	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	担当職員 (監理課、地域づくり推進課、財産管理課)	令和4年1月26日(水)	財産管理課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
愛野総合支所の駐車場確保	駐車場が拡充されたことにより、来訪者の利便性が高められた。	—	
施設のバリアフリー対策の推進	旧公民館には設置されていなかったエレベーターの整備等、バリアフリーに配慮することで、誰もが利用しやすい施設の整備が行われた。	—	
交通の要衝であることを踏まえ、バス乗り継ぎの利便性向上を推進	運行ルート・ダイヤの改正による島鉄バス・県営バスの連絡機能の強化及びバス停の整備を行うことで、バス利用の利便性が高められた。	交通事業者の要望もあり、バス停の集約化には至らなかった。	
地区内の定住人口が増加する一方で、遅れている生活道路や排水路等の住環境整備を推進	バス停車帯の整備や道路拡幅等、道路改良により住環境の向上が図られている。	—	
歩行者・自転車利用者の安全を確保するため道路整備を推進	新たな歩道の整備及び道路改良により、道路環境の改善と歩行者等の安全性が高められた。	—	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	愛の夢未来センターを拠点とした地区の賑わい持続	・主な基盤整備(ハード)は完了しているため、今後は施設の活用・利用を促すための周知、情報発信(ソフト)を進め、交流・賑わい創出の拠点として活用を図る。 ・賑わい持続、創出の取組として、住民主体のイベント等の支援を行う。	・イベントの開催支援 ・官民連携のイベント開催 等
	道路改良をはじめとした地区の住環境維持	・本計画で整備した区間の他、必要に応じて継続的な道路改良を進め、更なる道路環境の向上を図るとともに、経年劣化が進む道路についても改修を行い住環境の維持を行う。	・都市計画道路の整備 ・歩道の整備 ・街灯等の照明整備 等

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	バスの利便性向上	交通事業者と調整を図り、引き続きバス停の設置位置や集約化について検討を行い、交通の要衝・結節点としての利便性の向上を目指す。また、今後の公共交通に係る整備においても、交通事業者と連携することで利用しやすく便利な公共交通の構築を目指す。	・公共交通網の検討 ・バス停配置の検討 等

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地域交流センターの利用者数	人	63,876	H26	78,000	R2	確定 ●	34,770	×	あり	→	—	—
							見込み			なし ●			
指標2	市民満足度調査	%	62	H26	49	R2	確定 ●	58	×	あり	→	—	—
							見込み			なし ●			
指標3	市民満足度調査	%	42	H26	50	R2	確定 ●	58	○	あり	→	—	—
							見込み			なし			
その他の数値指標1	愛野地区住民満足度調査(愛の夢未来センター)	%	—	—	/	/	確定 ●	94	/	/	→	—	—
							見込み						
その他の数値指標2	愛野地区住民満足度調査(公共交通)	%	—	—	/	/	確定 ●	93	/	/	→	—	—
							見込み						
その他の数値指標3	愛野地区住民満足度調査(道路整備)	%	—	—	/	/	確定 ●	89	/	/	→	—	—
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・指標1について、継続的に計測(取りまとめ)を行っていたため、状況の把握や傾向、事業効果を常時確認することができた。	・毎年、指標データを計測することで、改善状況の把握や見込値の推計が安易となる。
	うまくいかなかった点	・各指標の推計値は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言やその後の外出規制が数値に影響を与えている可能性が想定される。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・指標と事業の整合性は図られた。	・事後評価を見据え、まち全体の評価指標だけでなく当該地区の変化が分かる評価指標の検討も想定しておく必要がある。 ・事業に企業等の協力が必要になる場合は計画検討時に協議し実現性を確認する必要がある。
	うまくいかなかった点	・当初計画していたバス停の集約については、交通事業者の要望もあり実現ができなかったため代替指標の計測に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和4年2月1日(火)～ 令和4年2月15日(火)	同左	財産管理課への持参、 郵便、ファックス、電子 メール	財産管理課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報に公表することを掲載	広報うんぜん2月号	令和4年2月1日(火)～ 令和4年2月15日(火)		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	財産管理課窓口で閲覧	令和4年2月1日(火)～ 令和4年2月15日(火)	同左		

住民の意見	—				
-------	---	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	長崎大学水産・環境科学総合研究科教授 片山健介 長崎大学経済学部准教授 山口純哉	令和4年2月28日	財産管理課	なし	独自に設置
その他の委員	雲仙市総務部部長 松橋秀明				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って事後評価が適切に実施されたことを確認した。
	成果の評価	指標の一部が未達となっているが、住民満足度調査の結果など「その他指標」により事業の効果を確認した。
	実施過程の評価	—
	効果発現要因の整理	効果発現要因が適切に整理されているとともに、妥当な改善方針が提示されていることを確認した。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案が適切に公表されたことを確認した。
	その他	・整備方針3では交通弱者が安心して通行できることも目標として示されている。意識調査回答者の属性による分析があってもよいのではないか。 ⇒高齢者(交通弱者)の回答を分析し、様式2-1「評価結果のまとめ」の効果発現要因に反映。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・市民の利便性向上に向けた企業(交通事業者等)との連携、賑わいの継続に向けた市民との協働したイベントの実施等に努めてもらいたい。 ・道路整備による安全性向上については、市民アンケート自由記述で多く見られた夜間照明の改善も行われることが望ましい。 ・整備方針1にある「市民はもとより市外からも集まりやすい立地特性を活かした交流と賑わいを創出するまちづくりの拠点」としての活用方策を検討されたい。 ⇒添付様式5-③「今後のまちづくり方策」に反映。
	フォローアップ	—
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくりの方策は妥当である
その他	市民と協働しながら、整備した施設等の維持管理、活用に努めてもらいたい。	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、都市再生整備計画評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
—	—	—
—	—	—

有識者の意見	—
--------	---